

## カッコウアザミ属植物 (*Ageratum* spp.) による 牛の植物中毒事例

大鹿有加<sup>1)†</sup> 山口貴一<sup>2)</sup> 岩元伸一郎<sup>3)</sup> 池田省吾<sup>1)</sup> 上垣隆一<sup>4)</sup>

- 1) 鹿児島県鹿児島中央家畜保健衛生所 (〒 899-2201 日置市東市来町湯田 1678)
- 2) 鹿児島県鹿児島中央家畜保健衛生所徳之島支所 (〒 891-7101 大島郡徳之島町亀津 913)
- 3) 鹿児島県阿久根食肉衛生検査所 (〒 899-1629 阿久根市塩浜町 2-44-2)
- 4) (国研) 農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門 (〒 305-0856 つくば市観音台 3-1-5)

(2023 年 9 月 7 日受付・2023 年 12 月 18 日受理・2024 年 3 月 6 日公開)



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/3/77\\_e33/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/3/77_e33/_article/-char/ja)

### 要 約

鹿児島県奄美群島の黒毛和種繁殖農家で、繁殖雌牛 3 頭が食欲不振、起立不能、出血傾向を呈し、死亡した。死亡牛及び同居牛の血清生化学的検査所見では、強い肝機能障害が示唆された。直前に給与された飼料には多数のカッコウアザミ属植物が混入しており、残余飼料、圃場植物及び死亡牛の糞便から、ピロリジジナルカロイド類 (PAs) のリコブサミンが検出された。硝酸塩中毒等は否定されたことから、本事例をカッコウアザミ属植物による中毒と診断した。当該植物が含有する PAs の肝毒性やクマリンによる血液凝固阻害が病態に関与したと考えられた。また、奄美群島や沖縄本島において採取したカッコウアザミ属植物 19 検体すべてから PAs が検出された。今後の対策として、カッコウアザミ属植物の中毒に関する周知や適切な草地管理等の指導を行っていく必要がある。

——キーワード：カッコウアザミ属植物，リコブサミン，ピロリジジナルカロイド。

-----日獣会誌 77, e33～e38 (2024)